

「市庁舎新築移転を問う市民の会」総括

(1) 「市庁舎新築移転を問う市民の会」(以下、市民の会)は、竹内前市長が直前の市長選で市民に問うこともなく突如として「市庁舎新築移転」の方針を打ち出した非民主的な市政運営に対する市民の怒りと100億円を超える多額の経費投入に対し「もったいない」という庶民の声を火種に燃え上がった。

そして会の名称に象徴されるように「新築移転」の可否を問う住民投票要求運動として立ち上げ、ある受任者がいみじくも「平成の百姓一揆」と表現したように、燎原の火のごとく全市に燃え広がり、実質、僅か25日間という短時間で、しかも規制の多い困難な取り組みにもかかわらず、必要数の13倍にも達する5万人を超える住民投票要求署名が結集された。

(2) しかし、市議会の「新」「清和会」「公明党」など、竹内市長を支持する会派は、「対案がない」などと不当な言いがかりをつけ、多数を笠に着て住民投票要求署名を否決した。しかし、市議会多数派は湧き上がる市民の批判をかわそうとして、議会自らの責任で住民投票を行うことを全員一致で決議し、「新築移転」か「耐震改修・一部増築」なのかで住民投票を実施し、「市民の会」が支持した「耐震改修・一部増築案」が60%を超える圧倒的多数で勝利した。

(3) 竹内市長は、一度は「住民投票の結果を尊重する」と表明しながら、前言を翻し、「議会の検証」を求め、圧倒的多数を占める市長支持派に依拠して、本来の住民の意思を覆そうとの画策を開始した。これこそ、今日まで続く鳥取市政の混迷の最大の原因であり、その責任は重大と言わざるを得ない。

(4) この間、市の広報宣伝費を濫費して「新築移転」推進に市民を誘導する宣伝活動を臆面もなく展開した。また、市議会の「市庁舎整備特別委員会」は市長支持派議員の多数決の横暴と策謀に満ちた謀略の舞台となった。

そして、日本で行われた住民投票で「住民投票の結果を否定した議会決議」を行った唯一の市議会という破廉恥で不名誉な汚名がその集大成であった。

(5) 市の行政と市議会市長派に対し、「市民の会」と固く結んだ、「会派 結」「共産党」

無所属 1 名の 13 名の市議会議員は少数ながら敢然として立ち向かい、この策謀を阻止するためにひるむことなく闘い続けた。

(6) 「市民の会」も、幹事会の団結を核に、逼迫した財政状況を抱えながらも、多くの市民に支えられながら、粘り強い取り組みを続けてきた。

市長派の策動に対応し、多くの市民の参加の下で時宜を得たチラシ配布行動、多くのドライバーの協力の下で鳥取市の津々浦々に及ぶ宣伝カーを駆使しての広報宣伝、風雨もいとわず続けてきた辻立ちの訴え、さらに、多くの学識経験者を招へいしての講演会の開催で、自らの取り組みへの確信を深めながら、真の民主的市政の実現へと市民運動の質を高めてきた。

こうした「市民の会」の取り組みが、竹内市長を世論で包囲し、4 選出馬断念に追い込んだ重大な要因となったことは、一つの成果として評価できる。

(7) しかし、市長選挙にあたっては、残念ながら「市民の会」として統一的な候補を以て取り組むことができなかった。思想信条を超えて結集した「市民の会」として選挙に取り組むことは難しく「開かれた市政をつくる会」を組織し、「住民投票を尊重し耐震改修を基本とする庁舎整備」を中心とする政策が基本的に一致する市長候補として鉄永幸紀氏を支援したが残念ながら惜敗した。

しかし、新聞各紙もほぼ一致して論評を加えているように、市民は新築移転を選んだということではない。非民主的市政運営に対する強い不信感と市政改革を望む声は極めて大きなものがある。選挙結果で重要なことは、新築移転を主張した深沢氏の 3 万 1 千票に対し、これに批判的な意思を示した市民の票は 5 万票を超え「住民投票を守れ！」という市民の意思は死んでも眠ってもいないことが明らかになった。

(8) そして、9 月議会では、深沢市長が満を持して提案してきた「位置条例案」を否決に追い込んできた。そして位置条例案可決に必要な議員数 2 / 3 の獲得を目指した今次市議会議員選挙においても、必要な 2 2 議席を確保できず、「新築移転案」の推進に暗雲が漂う情勢を築き上げてきた。

(9) 今回の市議選の中で明らかになったことは、鳥取市の政治的基盤は、未だ地縁・血縁による保守的色彩が根強く残っていることである。

しかし、なお、古い体質の非民主的市政を許さないという市民の確固たる意志が位置条例の簡単な成立を許さないという結果をもたらしていることに 黎明を見たい。

(10) 鳥取の夜明けはまだ遠いことを感じる一方で、「市民の会」の粘り強い取り組みが、市民の中に根を下ろし、「市民による開かれた市政をつくりたい」という願いがあちらこちらで芽生えていることを強く感じている。

今日ほど、多くの市民が鳥取市政に関心を持ち、不十分であっても自らの意思を口に出してきた時代はこれまでになかった。これこそ、私たち「市民の会」が、決してあきらめることなく、地を這うように粘り強く市民に訴え続けてきた成果であることを誇りをもって明らかにしたい。

(11) 私たち「市民の会」の使命は、今回の市会議員選挙を以て終えた。しかし私たちの胸に灯った「民主的市政実現」の夢を灰にすることなく炭として固く胸に秘めて置きたい。そして、新たに市庁舎問題のみに課題を限定せず、広く市政全般にわたって市民の立場に立って市政運営が行われるよう監視し、学習するような組織に昇華することが今、求められている。そして、万一、不当な市政運営が行われるようなことがあれば、胸に秘めた炭は、再びあの住民投票の時のように劫火となって燃え上がる事を確信し総括とする。

／以上